

佐伯市中心市街地地区（2 期）

（大分県佐伯市）

計 画 期 間 平成 22 年度～26 年度
 面 積 157ha
 交付対象事業費 7,066 百万
 市人口 76,228 人（地区内人口 7,250 人）

ポイント 生活を支える機能・サービスの充実
 歴史・文化、物産を活かした魅力の創出

地区概要 近年では居住人口の減少や空き店舗の増加などにより、市街地の空洞化が進んでいる。そこで、大手前開発を核とした事業を実施することにより中心性を回復し居住人口、交流人口の増加を図る。

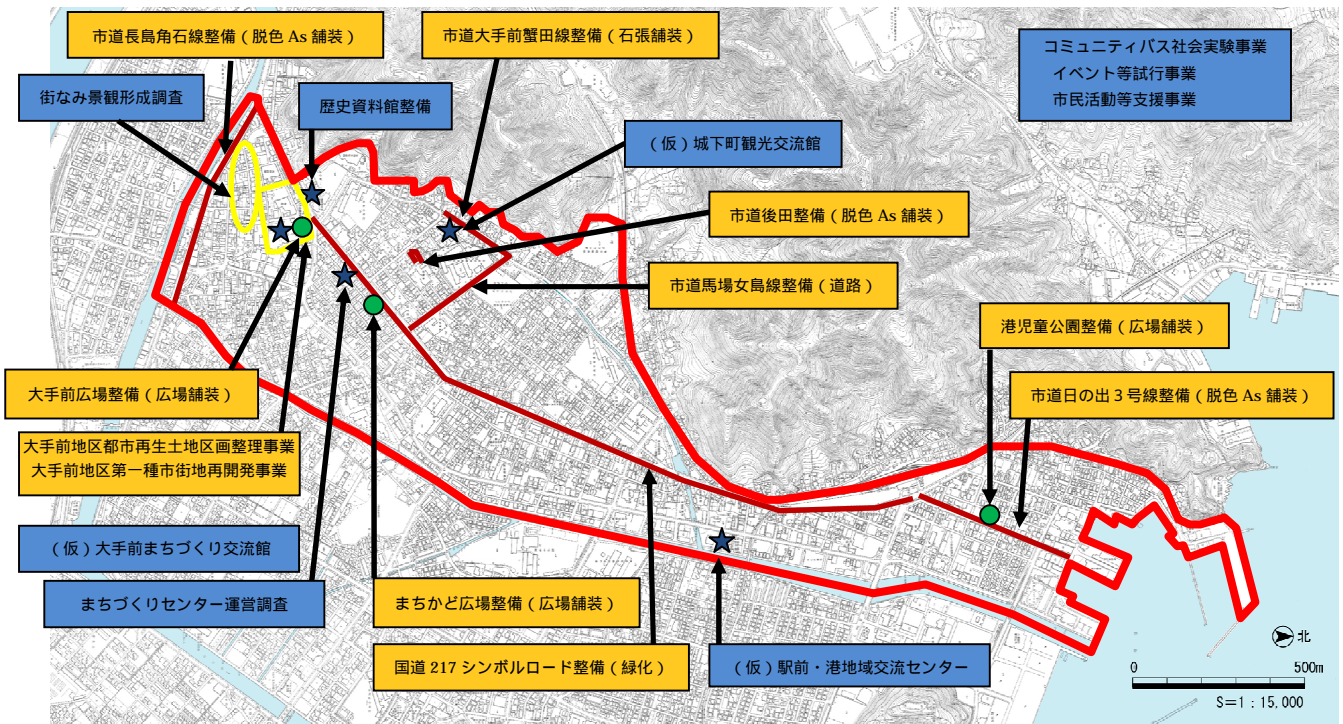
目 標 中心市街地における賑わいの創出と、都市のシンボルゾーン形成を図る。

指 標 中心市街地内の回遊性の達成度及び人の集まりを計測するための指標として、4 地点の歩行者通行量を指標とする。また、交流人口の指標として、歴史と文学のみちへの年間入込客数を指標とする

歩行者通行量	2,656 (H21)	2,837 (H26)
交流人口	141,000 (H19)	156,000 (H26)

事業内容 基幹事業（5,404 百万円） 道路（幅員 12m、延長 360m）、道路石畳等（5 路線、延長 3,250m）公園（1 箇所、3,200m²）広場（2 箇所、1,700m²）地域交流センター（2 箇所、床面積 2,720m²）（仮）城下町観光交流館

提案事業（1,662 百万円） 歴史資料館整備（1 箇所、床面積 1,985m²）、土地区画整理事業（18,322m²）まちづくりセンター運営調査、市民活動等支援事業、イベント等試行事業、コミュニティバス社会実験事業、事業活用調査



地区の現況と課題

佐伯市中心市街地地区は、藩政時代からの町割が残る城下町拠点（大手前、山際、仲町周辺地域）から駅前・港拠点（佐伯駅、葛港周辺）までの区域である。城下町拠点は事業所や商店街の中心であり、駅前・港拠点は広域交通の要所となっている。しかし、近年では居住人口の減少や商店街の空き店舗の増加などにより、市街地の空洞化が急速に進行している。今後の課題として、大手前開発事業等の商業活性化の推進、駅と港の振興による回遊性の強化、高速道路開通に伴う交通結末点の強化と来街者の回遊性の強化等がある。

基幹事業の特徴

公園

港周辺の活動が活発化していることを機に、港周辺の賑わいの創出を図る。

地域生活基盤施設

仲町、大手前周辺地区内に憩い、休憩スペースの提供やミニイベントの開催による賑わいの創出など滞留時間の延長を図る。

高質空間形成施設

計画策定にあたり住民が主体となり、まち歩き及びワークショップを行い愛着の持てる道路整備・共通したサイン設置を行う。

高次都市施設

駅前・港地域の地域福祉活動、情報交換、生涯学習などの自主的活動を促進することにより地域の賑わい創出を図る。

土地区画整理事業

市街地再開発事業

大手前地区の再開発において、店舗、駐車場、住宅、地域交流センター等を整備する。（区画整理事業と市街地再開発事業の一体的施工）

提案事業の特徴

歴史資料館整備事業

郷土の歴史を総合的に学び、その文化を伝承するために、毛利家遺品等の保存・展示により芸術文化の振興を図るため資料館を建設する。

既存建造物活用事業

観光の拠点として、来街者が安心して立ち寄り、ニーズにあった情報や特産品の購入機会の提供により賑わいの創出を図る。

コミュニティバス社会実験事業

交通弱者の利便性を高めるために大手前から駅・港周辺を中心とするコミュニティバス運行の社会実験を実施する。

計画策定プロセス

住民参加のプロセス

各施設整備にあたり、地域住民による事業部会の設立やワークショップを開催しながら市民活動の活発化を図る。

中心市街地活性化協議会

商工会議所とまちづくり会社を主要な構成員とし、多様な関係者で中心市街地の活性化に関する事業の総合調整を行う。また、協議会の下に幹事会、作業部会を置き、調整、検討を行う。



佐伯市中心市街地地区（城山から）

整備前



整備後



整備イメージ図



大手前地区再開発事業（イメージ図）



歴史資料館整備事業（イメージ図）



調査事業（既存建造物活用）



まちづくり協議会の様子